

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌



KEIWA COLLEGE REPORT

第37号

January 2004

敬和カレッジレポート

発行／敬和学園大学広報委員会



植樹式 一木を育てるように—

CLOSE UP

「引率された」中国の旅 国際文化学科 松本 ますみ

第13回 敬和祭のご報告

国際交流係新設 地域に根ざした国際交流を目指して

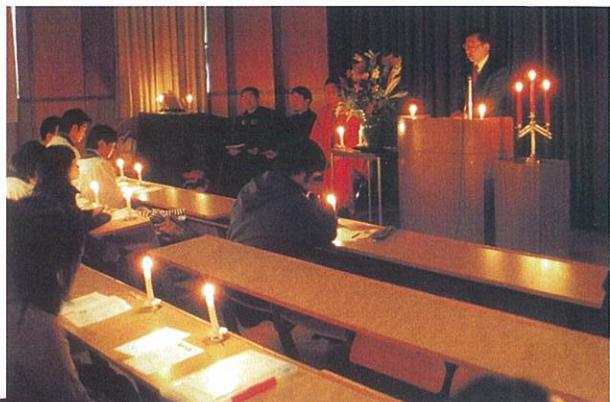
英語科教員対象リフレッシュ・セミナー／植樹式とリトリート

就職内定者の体験発表会／企業との就職懇談会

保護者との懇談会／2004年度入試のご案内

2004

音楽礼拝「讃美と証し」



燭火礼拝「神に栄光、地には平和」

今年度のクリスマス行事として、12月12日に「音楽礼拝」、19日に「燭火礼拝」が大学にて行われました。

音楽礼拝では、ドイツ在住のソプラノ歌手 工藤篤子さんによる独唱「讃美と証し」に参加者は大きな感銘を受けました。

燭火礼拝では、参加者一人ひとりのローソクに火が燈り、東中通教会の原田史郎牧師による説教「神に栄光、地には平和」に耳を傾けました。また、新発田市の特別養護老人ホーム「二の丸」と新発田教会にて歌と演奏のキャロリングを行いました。夕方からのクリスマスパーティーは大いに盛り上がり、2003年最後の行事を締めくくりました。

もくじ

CLOSE UP 「引率された」中国の旅 松本ますみ …	1	内定者の体験発表会	10
第13回 敬和祭のご報告	4	企業との就職懇談会	10
国際交流係新設 地域に根ざした国際交流を目指して …	6	保護者との懇談会のご報告	11
卒業生は今 荒木陽子	7	寄付者ご芳名	11
英語科教員対象リフレッシュ・セミナーのご報告	8	2004年度入試のご案内	12
植樹式トリートリー	9	学事予告	12
図書館の開放について	9	キャンパス日誌	13

<表紙写真> 「植樹式一木を育てるようにー」
今年度入学生の木を植えました。成長が楽しみです。(p.9)

CLOSE UP

「引率された」中国の旅

国際文化学科 助教授 松本 ますみ



● 二〇〇一・九・一一

「二〇〇一年九月十一日、どこで何をしていました?」あの事件から一年以上たつてもよく交わされる会話です。私はあの事件を敬和学園大学の学生たちと一緒に旅をしていました。正確には、九月十二日の午後、西單(シーナン)の大規模書店に向かう路線バスに乗っていたとき、別のバスの窓に張つてあった新聞をすれちがいざまにみて知つたということになります。

「美国世界貿易中心、五角楼がハイジャックされた飛行機に攻撃される」云々、と太文字で書かれていたのを一瞬みて、一体

これまで“ペンタゴン”が中国語で“五角楼”

ということすら知らなかつたのです。不安になつて街角の売店で新聞を買おうと思つたのですが、ほとんど売り切れ状態。唯一売れ残つていた広州の新聞を読んでみても詳細はわからず、とにかく何か異常なことが起こつているらしいということだけが分かるという状況でした。

こういう時、日本であればテレビをつければわかるのですが、泊まつていた中国の北京師範大学の宿舎のテレビでは、衛星放送が映らず、数多い地上波放送も延々と歌番組やドラマといった通常番組を流すばかりでした。一瞬、世界貿易センターが崩壊する映像が流れることもあるのですが、詳しい説明もないまま、また通常番組に戻るというありさまで、「あれは映画のシンンなのか」と本気で思つたものです。ただ、ここが中国らしいところなのですが、江沢主席がブッシュ大統領におくやみの電報を打つたというニュースが流れたため、本当に起つた事件なのだとそこで初めて分かったのです。

● 飛ばない飛行機



天壇(テンタン)にて

その十二日の夜、北京大学に留学している知り合いの日本人学生K君が私たちの宿

舎に駆け込んできて持ち込んだのは、十二日以降成田に入る飛行機はすべてキャンセルというインターネットからの情報でした。翌日十三日の早朝の飛行機で日本に帰るはずであつた私たちは真っ青になりました。すぐに対策会議が開かれました。「当分飛行機はだめだから、天津から船に乗つて帰ろう」という意見、「でも、日本についても神戸から新潟までの旅費がないよ」という声。はては、「飛行機がハイジャックされたらどうしよう」との声まで出てきて、全員の顔に不安がよぎりました。「とにかく落ち着こう、なるようにしかならない、朝一番に飛行場に行こう」という結論が出たのは、明け方ちかくでしたから、ほとんどの人は徹夜でした。

結果的にどうなつたかですって? はい、予定どおり帰りました。なぜならば、私たちが予約していたのは、イラン航空の便でしたから。成田への乗り入れを止められたのはアメリカ、日本などテロの標的にいたのはアメリカ、日本などテロの標的に

CLOSE UP

されそうな国の航空会社の飛行機で、イラン航空は、アメリカからすればテロをしかけかねない国（これは大きな偏見ですけど）の会社ですから、見方を変えれば一番安全だつたのです。帰国した成田空港は閑散としており、なによりもテレビで繰り返し世界貿易センター崩壊の映像を流していながら中国との大きな差でした。アメリカの報道をほとんどそのまま垂れ流す日本の報道と、一定の線を画す中国の報道。この事件を通して、アメリカに対する日本と中国の国事情の差というものを感じることができました。それにしても学生のみなさんも、よくぞあの難局と一緒に乗り切ってくれたものです。

● 中国に行こう

二〇〇一年のこの旅は、当時敬和に留学していた内モンゴル出身の何為民さんと北京出身の李華穎さんの、自分の故郷を敬和の友人に見せたいという強い希望で実現したものでした。ですから、中国に到着してからは、何さんと李さんが地元のコネを存分に使ってホテル、汽車、バスなどすべて手配し、「引率して」くれるということになりました。私が手配したのは、インターネットで見つけたイラン航空のチケットぐらいでどうか。成田—北京往復五万二千円なり。夏としては破格値でした。このイラン航空という選択が、図らずもテロにもめげない予定どおりの帰国をもたらすことになりました。当初の目算では、一週間の北京—内モンゴルの旅で総計八万円ぐらい

で収まる予定でした。さて、大学内部で募集をかけると、総勢で十五名もの人が集まりました。私の基礎ゼミから三人、三年ゼミから一人、ゼミ以外の六人、本学契約講師のマーク・フランク先生ご夫妻、そして私と夫です。

ホテルは一人あたり高くとも一泊約二千円、安いところでは七百円くらいで利用できました。ツインタイプでバス・シャワーつきの部屋がですよ。え？ 安すぎる、信じられない、ですって？ いえ中国は物価が日本の約一〇分の一ですから、現地の人たちが泊まるかなりいいホテルでもこれくらいで泊まれるのです。

● トラブルと感動、そして…

旅にトラブルはつきものです。一〇名以上もの一行で訪れた故宮では迷子の続出です。故宮は、Forbidden City（禁断の都市）



馬に乗ってモンゴル大草原を行く

とも英訳されますが、本当に一つの都市ほどに広くて、一つひとつ建造物や展示物を見ていくば、ゆうに一日以上はかかるほどです。そんなところに興味津々の敬和生がいってごらんなさい、あつという間にどこかに消えてしまします。結局、小一時間搜しても見つからず、探し疲れて故宮の入り口へたり込んでいたら、迷子組が戻ってきました。これが、「引率された」教員の最初の心痛でした。

気を取り直して夜行列車に乗って出かけた何さんの故郷であるモンゴルの大草原は、三六〇度見渡すかぎりの地平線。草原をみんなで馬にのり一列になつて散歩しました。白、栗、黒とさまざまな色の馬の隊列。馬の鈴の音。空は真っ青、地は緑。私も内モンゴルを旅するのもはじめてならば、馬に乗るのもはじめてでした。何度も「生きていてよかったです、天と地の間にいま存在してよかったです」と思つたものです。みんなも至福の時を過ごしていました。

しかし、そこからが私の地獄でした。モンゴル族は夏だけゲル（移動式住居）を観光客に開放しているのですが、そこでの歓迎の式典で、おわんに入つた、アルコール五〇度もある白酒を三杯も一気飲みさせられてしまつたのです。なんでも私が今回の旅では主賓で、主賓はどうしてもゲルの主人に對して一氣にお酒を飲んでその心意気を見せねばモンゴルの礼儀に適わないというのです。私はそれから数時間分の記憶がありません。意識がないときに私は一体何を言つていたのでしょうか。まったく恐ろしいことですが、後々、私には『敬和で一

CLOSE UP



マーク先生夫妻のモンゴル衣装

番酒癖が良くない教員」というありがたくないレッテルが貼られてしまつたようです。私自身の名譽のために言つておきますが、私は普段あまりお酒を飲みません。夜飲むと本が読めなくなる、というのがその最大の理由です。あのような酩酊状態はあとにもさきにもないことです。ちなみに、私がその歴史を研究し、よくお付き合いしている中国のイスラーム教徒は全くお酒を飲みません。ですから、私は中国でお酒を飲まされたことがそれまでなかつたのですね。お酒に自信がない人がモンゴルに行くときにはくれぐれもご注意を。

寝食を共にして

旅を一緒にすると、その人となりが良く分かります。例えば、K子さんはお買い物好きで勧められるとすぐ買ってしまう人であること。S君は思索家で、T子さんは何に対してもものすごく好奇心が強い人であ

るということなど…。マーク先生夫妻のモンゴル衣装も素敵でした。みんなキャンバスでは絶対に見せてくれない姿を見せてく
れました。そして何よりも、何さんと李さんが優しい気遣いがみんなの心に焼き付いています。

あれから二年たちました。私は仕事でよく中国を訪れます。個人旅行は気楽でいいのですが、反面、二年前の夏のあの笑いが絶えなかつた楽しい旅行をなつかしく思い出します。中国人の二人、私たち夫婦とあと一人を除いては、全員がはじめて中国を訪れたのです。海外旅行はおろか、飛行機もはじめてという人が何人もいました。すべてはじめてという感動に打ち震える学生と、その感動を分かちあうことができたのです。どの料理を食べてもおいしい、どのお店にいっても面白い、どの街にいっても驚きと発見の連続であつた敬和の学生たち。そして、一緒に机を並べて勉強している何さんと李さんが生まれ育ち、人格を形成した原点を訪ねて、自分のそれとの違いと共に通点を見つけ、将来にわたる国境を越えた友情を誓つた敬和の学生たち。あの十五名の楽しい仲間と一緒に同じバスにのり、同じ食事をし、泣きわめき、飛行機が飛ばないかもしれないという不安に苛まれ、という体験はもう二度とできません。短い旅行ではありましたが参加者全員が新たな世界観を獲得して自分を成長させてくれました。そして今、卒業して仕事をしている人、大学院に進学して勉学に励んでいる人、これから就職戦線に飛び出す人、いろいろです。

一期一会

李さんが生まれ育つた古い胡同の町（北京の下町）はあの旅行のあと取り壊されたということです。北京オリンピックを二〇〇八年に控えて、すごい勢いで都市再開発が進んでいるからです。彼女が小学校時代に教室を抜け出してその上を伝つて歩いたのですが、反面、二年前の夏のあの笑いが絶えなかつた楽しい旅行をなつかしく思い出します。中国人の二人、私たち夫婦とあと一人を除いては、全員がはじめて中国を訪れたのです。海外旅行はおろか、飛行機もはじめてという人が何人もいました。すべてはじめてという感動に打ち震える学生と、その感動を分かちあうことができたのです。どの料理を食べてもおいしい、どのお店にいっても面白い、どの街にいっても驚きと発見の連続であつた敬和の学生たち。そして、一緒に机を並べて勉強している何さんと李さんが生まれ育ち、人格を形成した原点を訪ねて、自分のそれとの違いと共に通点を見つけ、将来にわたる国境を越えた友情を誓つた敬和の学生たち。あの十五名の楽しい仲間と一緒に同じバスにのり、同じ食事をし、泣きわめき、飛行機が飛ばないかもしれないという不安に苛まれ、という体験はもう二度とできません。短い旅行ではありましたが参加者全員が新たな世界観を獲得して自分を成長させてくれました。そして今、卒業して仕事をしている人、大学院に進学して勉学に励んでいる人、これから就職戦線に飛び出す人、いろいろです。

松本 ますみ 助教授 プロフィール

新潟大学大学院

現代社会文化研究科修了・学術博士

● 研究・演習のテーマ

中国の国民統合と民族問題を研究。
特に中国イスラーム研究。ゼミでは、東北アジア近現代史に関する諸問題について徹底議論する。

● 主な担当科目

アジア史、儒教文化圏研究、中国語、文化論演習

敬和祭

npathy～共鳴～」のご報告

多くの天気のなかたくさんの方々にご来場いただきました。昨年よりもありました。1日目には、ひなたと高岡奈央さんのライブがパーム館（本学「響」の勇壮な演奏、静寂した空間での茶会が来場者の五感に語りかけていどん、などなど盛りだくさん。来場者の方々の味覚とお腹を満足させるもで行われ、在学生、卒業生による11バンドのパワー溢れるサウンドが響きリーダーチームや学生チームが参加して、熱戦が繰りひろげられました。い。全力でがんばった実行委員会のメンバーや屋台の準備に黙々と汗を流んの人、この敬和祭がみんなの青春の1ページに刻まれたことだけでも素

ています。ここに厚く御礼申し上げます。（学生委員会）

私たちプラスバンド部は今年もイカチーズ焼き屋を出店しました。これは四、五年前から続いている我が部の伝統です。イカチーズ焼きとは、タコ焼きのタコの代わりにイカとチーズを入れたものです。昨年すごくおいしかったからと買いにきてくれるお客様や、その評判を聞いてくれた



プラスバンド部
英語英米文学科三年
佐藤 理絵

私たちの伝統の“技”



伝統の“技”を守る職人たち

お客様などたくさんの方がいらっしゃつてうれしい限りです。

現在、プラスバンド部は十五人で活動をしています。敬和祭二日目は地元の新発田自衛隊音楽隊の方々と合同演奏をさせていただきました。屋台と演奏と同時進行だったので不安ではありましたが、どちらも部員みんなの協力により成功させることができました。来年もぜひ屋台と演奏を両立させたいと思います。

最後に、敬和祭を支えてくれた実行委員のみなさま、ご来場、お買い上げいただき、またみなさま、本当にありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。



施設の方と歓談する新井学長

毎年、敬和祭の前日には、学生たちが「ボランティア実習」でお世話になった福祉施設などの方々や地域のみなさまを大学にお招きし、交流の一時を過ごす「ふれあいバラエティー」を開催しています。

今年度も学生を中心とした実行委員会の企画・運営により、四施設百三十七名の方に参加していただき、バンド演奏やティーパーティ、レクリエーションなどをを行い、楽しい交流の場を持つことができました。

ひるがれ！ ふれあいバラエティー

敬和祭

第13回敬和祭「2003 Sy

今年の敬和祭は、11月8日、9日に行われました。2日間とも雨というあい入場者数が減りましたが、実行委員と参加学生の活躍で充実した学園祭に体育館)で行われ、観客と一緒に盛り上がりました。また、聖籠太鼓るようでした。“食”を見れば、カレー、スープ、イカチーズ焼き、キムチのばかりでした。2日目は、敬和祭の目玉である学生ライブがオレンジホールました。また、パーク館ではバスケットボール大会が開催され、新発田市内

参加した学生には、「今年の敬和祭は大成功だったよ」と声を掛けてあげた学生のみなさん、参加して楽しんだ学生たち、それをサポートしたたくましいことです。

敬和祭は、毎年近隣の企業の方々からの協賛金と後援会からの援助で行わ



村山ゼミ
英語英米文学科三年
麥倉のぞみ

手作りスープ屋さん

「屋さん」の看板を出すことになりました。そして、コンソメ味のロールキャベツスープと中華風ワンタンスープの二種類を販売することにしました。スープの具は材料にこだわって、すべて手作りにすることにしました。しかし、今までロールキャベツやワンタンを何百個も作ったことがなかった私たちは四苦八苦。一つひとつ道具を丁寧に作るのはとても大変なことでした。

苦労しましたが、そのかいあって、敬和祭当日にたくさんの人たちに食べていただき、「おいしい」とほめられました。とてもうれしかったし、大変充実した企画でした。

今回、ふれあいバラエティの実行委員長という大役をいただき、企画・運営、記録という仕事をさせていただきました。とにかく活動内容が多くて毎日忙しく、はじめは不安でいっぱいでしたが、たくさんの施設や協会の職員の方や学生ボランティアのみなさんの協力で大成功に終わることができました。当日、参加者のみなさんの楽しそうな顔、「ありがとうございます」という言葉にとても感動しました。協力してくださったスタッフのみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年はボランティアとして参加した「ふれあいバラエティー」に、今年は企画・運営を任せられる実行委員として参加しました。少ない人員、進まない企画、滞る作業に投げ出しそうになりましたが、そんな私を叱り支えてくれた仲間、参加者の笑顔が、私の活動すべてを大学生活の中で最も意義のあるものに変えてくれました。私は、この「ふれあいバラエティー」を通じて、なにかを必死にやればやるほどに価値があるものが得られることを改めて実感しました。

仲よくみんなでがんばりました

私たちのゼミでは、スープ屋さんを開きました。私たちは、平日は一緒にスポーツをしたり、夏には佐渡で合宿を行ったりと普段から仲のよいゼミです。

敬和祭に屋台を出すと決めてからは、何度も集まってその企画についてお互いの意見を出し合いました。その結果、「スープ



仲よくみんなでがんばりました



山田 華代
英語英米文学科二年

ふれあいバラエティー
実行委員より



荒井 美穂
英語英米文学科二年

今年はボランティアとして参加した「ふれあいバラエティー」に、今年は企画・運営を任せられる実行委員として参加しました。少ない人員、進まない企画、滞る作業に投げ出しそうになりましたが、そんな私を叱り支えてくれた仲間、参加者の笑顔が、私の活動すべてを大学生活の中で最も意義のあるものに変えてくれました。私は、この「ふれあいバラエティー」を通じて、なにかを必死にやればやるほどに価値あるものが得られることを改めて実感しました。

国際交流

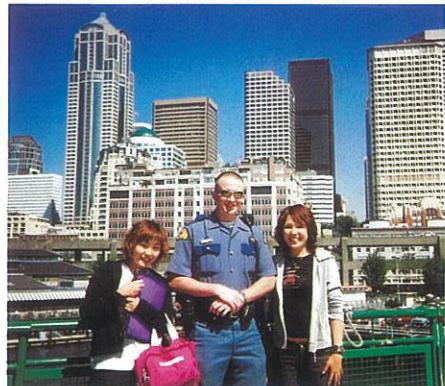
地域に根ざした国際交流を目指して

去る十月一日より本学教務課に国際交流係が新設されました。そこで、国際交流係の業務の紹介を兼ねて本学の国際交流について紹介します。

● 海外留学制度

本学における海外留学制度には、春期・春期休暇を利用した約五週間の「短期留学制度」があり、本学が提携しているアメリカのノースウエスタン大学、カリフォルニア州立大学サンバナディーノ校、ワシントン・アカデミー英語学校、イギリスのイングランド・コンチネンタル英語学校及びオーストラリアのメルボルン大学附属ホーソン英語センターで集中的に英語を学ぶことができます。

また、「長期留学制度」も一〇〇一年度



シアトル・ダウンタウンにて
(ワシントン・アカデミー英語学校留学)

から導入され、ノースウエスタン大学、ワシントン・アカデミー英語学校及びメルボルン大学附属ホーソン英語センターについては、一年を限度としてそれらの学校へ休学せずに留学することができます。これにより長期留学を経験して四年間で卒業することも可能となりました。

さらに、本学の提携校以外への留学を学生が自ら計画を立てて実施する「自由留学制度」もあり、英語だけではなく、中国語やドイツ語など英語以外のことばについても、現地で生の言語に触れながら学ぶことができるようになりました。

いずれの制度も単位認定が可能で、長期留学については奨学金制度もあり、充実した留学制度となっています。

今年の夏休みには、ドイツ（自由留学）に一名、サンバナディーノ校に五名、ワシントン・アカデミー英語学校に三名の学生が留学しました。現在、オーストラリアの長期留学に三名、また、長期自由留学制度を利用して、イギリスに一名、アメリカに二名の学生が留学中です。今後、さらに多くの学生が海外留学を経験し、異文化に触れる国際人として成長することが期待されます。

● 外国人留学生と地域交流

一〇〇三年十月一日現在で、本学には二十五名（研究生三名を含む）の外国人留学

生が在籍しており、年々留学生数は増加しています。留学生の増加は、国際主義を掲げる本学としては当然のことと言えます。が、何より地域に根ざす大学として、地域の国際交流に大きく貢献しています。

一例を挙げますと、昨年度から本学のジョイ・ウイリアムズ先生を中心としたナイティブ・スピーカーと本学の中国、韓国からの留学生四名が、聖籠町の三つの小学校で国際理解の授業を交代で担当しています。授業の内容は、英語での挨拶やゲームのほか、日本と外国との文化の違い（例えば、クリスマスやお正月）を小学生が発表したり、中国の留学生の書道教室や、韓国の留学生の料理教室など大変楽しく授業を行っています。



本学留学生 姜承賢さんによる韓国チヂミづくり
(聖籠町立蓮野小学校にて)

留 学

文化の違いから見えるもの



国際文化学科三年
白井 良枝



学校の仲間とホストファミリーといっしょに

カリifornia州立大学サンバナディーノ校に留学して、私の感情や考え方は大きく変化しました。今まで“旅行”で海外に行くことはあっても、海外で“生活”というものはしたことはありませんでした。この“生活”の中で「言葉」よりも「文化や生活スタイル、考え方」の違いを感じることが一日の中何度もあります。学ぶことが多かったです。

特に、私たちが通っていた学校には、日本人を含め、韓国、中国、台湾、メキシコなどの様々な国の人たちが通っていて、授業の中で、幼い頃にどのような遊びをして

卒業生は今

私は今、人生を楽しんでいる

一九九八年度卒業生 荒木 陽子

文学嫌いだった私がカナダの東のはずれで英文学の大作と戦う姿を、誰が予想できただでしょうか。両親を思えば今頃は就職して人並みの生活を送っていたかっただす。しかし、私は、生来のわがままな性格と、夢を夢のままにしておいてくれなかつた素敵な先生方との出会いという幸運の相乗効果で、興味の対象は八〇年代ロックから「文学」へと移行しましたが、いまだに子供時代から頭にこびりついて離れない北米

いたか、自分の家の周辺の様子や、将来に對して何か不満や不安があるなどを話しえる機会があり、他国の人たちがどのように生活環境の中で生きてきたのかを知ることができ、驚くこともたくさんありました。初めは戸惑つてばかりで自分が思つてゐることや考えていることが実行できず、「日本だつたら…」と不満に思うことが何度もありました。言いたいことを相手に一〇〇%伝えることができずに失敗したこともありました。たくさん日本との違いに触れ、はじめは理解できないことばかりでしたが、五週間の間で少しづつわかつてくことがありました。様々な異文化に触れることがありましたが、様々な日本文化に触れて、逆に日本に対する疑問や見習うべき点も発見でき、自分を見つめ直す良い機会にもなつたと思います。

私は幸せ者です。いつも誰かが助けてくれました。不況の真っ只中で多くの人々が希望する道を諦めざるを得ない中、私の人生は今のところ希望どおりです。敬和学園大学卒業後、同志社大学大学院アメリカ研究科に進学。修士号取得後一時は地元で就職しましたが、翌年の夏にはロータリー財団の後援でカナダのニューオーフィンズ・ウイック大学大学院英文科に進学。現在はカナダの七〇年代反アメリカ主義文学について修士論文を執筆中です。現状に多少の不満はあります。成績はあまりよくないし、英語を母語としないことにも限界を感じますが、その分学ぶことが多いです。



学友とのドライブ
(中央が荒木さん、撮影: Shane Ward氏)

「私は今、人生を楽しんでいる」

これが私の現在の気持ちです。岐路に立ったときにもそう言えればと思います。

Merry Christmas and A Happy New Year.

文化を追求し続けています。

式 樹植 リトリート

植樹式と教養リフレッシュ・リトリート

今年度就任された新井学長の提案で入学する学年に一本ずつの木を植えていくことになりました。植えられた木は、これから学生と共に大きく成長していきます。



2003年度入学生の「ユリノキ」

十月十日、胎内での「教養リフレッシュ・リトリート」に出発する前に参加者一同で一本の木の植樹式を行いました。延原宗教部長の司会で、默想・讃美歌・聖書朗読などの入った二十分ありました。新井学長より――このキャンパスのどの一本の木でもいい、見てもらいたい。松もいい。柏もいい。はじめは木らしいものなどなかったこのキャンパスに、多くはご寄贈によつて、今はこれだけの樹木の景観ができるがつっている。見てもらいたいのは、その一本一本に人の手がはいつている、という



「宗教と人間」倉橋 康夫先生

その後、学友、教員と共に親交を深めて人生を考える一泊の勉強会「教養リフレッシュ・リトリート」が胎内パークホテルにて行われました。倉橋康夫先生（富士見町教会牧師）の二日間にわたる講話「宗教と人間」を中心に、学生と教職員との質疑応答がじっくりと行われました。前期のチャペル・アッセンブリー・アワーでのエッセイ・コンテスト入賞者によるエッセイの朗読と賞状授与式、「学長大いに語る」で盛り上がり、一同生氣に満ちて、山を後にしました。

(学生係)

ことである。人の手がはいつて、この美しい空間ができるがつているのである。今ここにあなたがたの手で一本の木が植えられる。来春は若葉をつけ、そして背丈ものびる。あなたがたも一人ひとり、先生がた、友人たちとの、暖かい交わりの「手」のなかで自分を鍛え、大事な人生へ旅立つ準備を、ここで整えてもらいたい。――との激励がなされた後、緑のキャンパスの中にユリノキが立ちました。

その後、学友、教員と共に親交を深めて人生を考える一泊の勉強会「教養リフレッシュ・リトリート」が胎内パークホテルにて行われました。倉橋康夫先生（富士見町教会牧師）の二日間にわたる講話「宗教と人間」を中心に、学生と教職員との質疑応答がじっくりと行われました。前期のチャペル・アッセンブリー・アワーでのエッセイ・コンテスト入賞者によるエッセイの朗読と賞状授与式、「学長大いに語る」で盛り上がり、一同生氣に満ちて、山を後にしました。

図書館の開放について

敬和学園大学の図書館は地域のみなさまに開放しております。本学の図書館には、次のような特徴があります。

- 共生社会学科の新設に伴い、社会福祉関連等の図書を充実させました。
- 教職課程（英語）が設置されているため、教育関係の図書・雑誌が充実しています。
- 開学当初から、世界各國語に翻訳された聖書を展示し、キリスト教関連の資料を重点的に収集しています。
- パソコンを二〇台設置し、いつでも自由に利用できます。
- 本学の教員や卒業生の著作物を展示するコーナーを設けています。
- 年に二回広報誌「図書館だより」を発刊しています。
- 開館時間は次のとおりです。お気軽にご利用ください。

平 日	九時～十九時 (アトリエ・コスチューム講習は十二時まで)
土 曜 日	九時～十二時三〇分 パソコン・コーナー・閲覧のみ 土曜日は閉館です
長期休暇中	九時～十七時まで 土曜日は閉館です
閉 館 日	日曜日・祝祭日・本学休業日 蔵書点検・大学行事のある日

※お問合せは図書館(02541261159)まで

就職内定者の体験発表会

去る十一月十九日（水）に、「就職内定者の体験発表会」が学内で開催されました。本年度就職内定を得た五名の四年生より、一～三年生を対象にその体験報告をしていただいた後、各ブースに分かれて質問会が行われました。

自分と向き合って

英語英米文学科四年 皆川 由貴子

（新潟交通株内定）

昨年の今頃、私も今の三年生と同じ様にこの体験発表会に出席してから将来の職業について真剣に考え始めるようになりました。その時にとても参考になつたので、今度は三年生に少しでも私の話を聞いていただけだと思、引き受けました。

体験報告の後、各ブースに分かれての質疑応答の時間では、積極的に質問をしてくれた三年生がいました。就職活動を通して、その様な積極性はとても大切になつてきます。

私も三年生の就職活動の時期になるまでやりたいことが見つからず、将来に不安を抱えていました。しかし、就職活動は自分と向き合う良い機会です。本当に自分が何をやりたいのかをじっくり考え、まず自身の将来について真剣に考えてみてください。そして、最後まで諦めることなく、頑張り抜いてください。



先輩の皆川さんの話を聴く木根渉さん

見えてきた就職活動

英語英米文学科三年 木根渉 聖子

今私たち三年生は、自分の将来について漠然と不安を抱いている時期です。私も就職に対しただ焦っているだけで、何から手をつけてよいのかわかりませんでした。そんな中でこの体験発表会に参加し、先輩方から資料請求の方法や企業説明会での注意点、試験の流れなどを詳しく教えていただきました。これからやるべきことが見えてきました。そして、不安が少しづつ消え、就職に向けて頑張ろううた。

発表会の後は、徐々にエントリーなどの就職活動を始めています。それと併行して、今必死に自分と向き合い、周りの人の話を聞きながら、真剣に「自己分析」をしています。

今回の体験発表会を聞いて、一歩前に進むことができました。自分が満足できるような将来に向かって精一杯頑張ります。

企業との就職懇談会

去る十一月十四日（金）に、「就職懇談会」がホテル新潟で開催されました。厳しい採用状況にもかかわらず、五十七社（含官公庁）から七〇名近い採用担当の方々のご来臨を賜りました。



第一部では、「進路指導としての就職指導の成果と課題」というテーマで講演が行われました。また、第二部では本学教職員と企業の採用担当者の方々との名刺交換が、懇親会を兼ねて行われました。当日は、就職活動を間近に控えた八名の三年生に受付のお手伝いをお願いしました。初めは緊張の様子でしたが、教職員の指導を受けて徐々に採用担当の方々への対応も上手になりました。第二部の懇親会にも教職員とともに参加し、多くの採用担当者の方々から有意義なアドバイスを受けていました。

この全学的行事は毎年後援会からの多くの援助を得て行われております。改めてお礼申し上げます。

（就職委員会）

採用担当者の方からアドバイスを受ける学生

保護者懇談会



1・2年生の保護者と本学教員との懇談

保護者との懇談会のご報告

去る十月十八日（土）に三年生保護者のみなさま対象の「保護者との就職懇談会」がホテルオーネ新潟で、十一月一日（土）には一・二年生の保護者のみなさま対象の「保護者との懇談会」が本学にて開催されました。

ご多忙な折にもかかわらず、それぞれ四十五名ずつの保護者のみなさまからのご参加を賜りました。三年生の「保護者との就職懇談会」では身近に迫った就職に向けての本学の取り組み、一・二年生の「保護者との懇談会」では本学の教育方針の説明を行いました。その後、それぞれ参加された保護者のみなさまと常日頃アドバイザーとして学生と接している本学教員との懇談の場を持たせていただきました。ご家庭での様子など普段大学では見られない学生の姿を知ることもでき、教職員ともどもよい交流の場を持つことができました。

また、参加された保護者のみなさまからは次のような感想をいただきました。

△三年生保護者との就職懇談会

- ・就職活動に当たり、子供と一人三脚で取り組む姿勢を勉強できた。
- ・受付で私が子供に似ていると言われ、とても驚いた。学生一人ひとりを大切にして下さっていることを実感した。

△一・二年生保護者との懇談会

- ・大学の教育方針について、より深く理解することができ、安心して、信頼して、子を預けることができます。
- ・成績表の見方が分かり、よかったです。
- ・帰宅後、娘のものをもう一度見直してみようと思います。

これらの行事は後援会からの援助をいただき開催しております。無事に開催できましたことにお礼を申し上げますとともに来年度の保護者のみなさまのご参加を、心待ちしております。

寄付者ご芳名

一般
北垣 宗治
村山 純子

成田 賢仁
小川 文勝
千賀 不二
田村 賢雄

日本基督教団東中通教会婦人会
日本基督教団新潟教会婦人会
新潟YWCA

敬和学園大学後援会
新井 明3

一九九一組 菅野 由貴子
一九九四組 赤松 優美
一九九九組 上田 純子



いよいよ終盤 二〇〇四年度入試のご案内

学事予告

自由対話・相談型のAO入試も引き続き、三月末まで随時申込受付を行っております。対話を積み重ね、本学への理解をとことん深めたいという方に最適の試験です。

本学の入試は、学びを通して自分を変えたい、本物を見分ける目を養いたいという意欲の溢れる志願者の個性を積極的に評価します。これまでの教育の中では生かされなかつたかもしれない一人ひとりの人間性を温かく、大切に見つめていきます。各試験の詳細は左表をご参照ください。

(入試委員長)

二〇〇四年度の推薦入試が、十一月二十日に滞りなく終了いたしました。英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、そして共生社会学科の三学科にあわせて八十六名の志願者が受験しました。とりわけ来年度から新設される共生社会学科は、定員二〇名に対し三〇名の志願があり、好調な滑り出しがみせました。

一般入試は、A日程(英語・国語二科目型)が一月二十五日、B日程(英語・国語一科目選択型)が一月三十一日、そしてC日程(課題面接型)が三月九日に実施されます。英語・国語の問題は、昨年度同様、知識重視の問題を削減し、志願者の個性や考える力を生かせる問題を出題予定です。昨年度の問題集を入手ご希望の方は、入試室(二〇一二〇一六・三五三七)までご連絡をお受けければ無料で送付いたします。

センター利用入試は、一月十七日、十八日の両日に実施されるセンター試験で、必修の英語を含む二科目の受験が必要です。出願期間は一月から三月にかけて、三回に分けて設定されています。第一次募集(一月七日～二十七日出願受付)は奨学金制度が用意されており、受験者の最高得点者には、入学金および授業料の半額の奨学金(五七五,〇〇〇円)を、また、各学科受験者の二位から八位(「共生社会」のみ二位から四位)の得点者には、入学金と同額の奨学金(二三〇,〇〇〇円)を支給いたします。ご活用いただきたく存じます。

入試区分	試験日	出願期間
一般A日程:2科目型	1/25(日)	1/7(水)～1/20(火)
一般B日程:1科目型	1/31(土)	1/7(水)～1/23(金)
一般C日程:課題面接型	3/9(火)	2/16(月)～3/2(火)
センター入試(第1次募集)		1/7(水)～1/27(火)
センター入試(第2次募集)	1/17(土) 18(日)	2/16(月)～3/2(火)
センター入試(第3次募集)		3/3(水)～3/22(月)
編入学(第2次募集)	2/23(月)	2/2(月)～2/16(月)
社会人(第2次募集)	2/23(月)	2/2(月)～2/16(月)
外国人留学生(第2次募集)	3/15(月)	3/2(火)～3/10(水)
A O 入 試 (自由設定)		3/31(水)まで随時受付

一月	三月	二月	三月	四月
十九日	一日	十日	春期休暇 (三月三十日まで)	
卒業式	藏書点検のため図書館閉館 (二十二日まで)	後期集中講義期間 (十四日まで)		
三十一日	再試験 (三日まで)	十六日 後期末追試験(十八日まで)		
学年終わり	二日	二十一日 学内合同企業説明会		
	十九日	二十三日 編入学試験 (第一次)		
		社会人入学試験 (第一次)		
		十五日 外国人留学生入学試験		

キャンパス日誌

10月

- 1日 三条市オープン・カレッジ「アメリカという国」①
講師 James B. Brown 教授「アメリカ:風土と人々」
- 3日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑭
説教 延原時行 宗教部長
「風のような君～堂後和幸君を偲んで～」
講演 大谷貴子 全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長
「生きるってシアワセ！」
履修登録票提出期間 (～7日)
- 4日 共生社会学科新設記念連続講演会③
講師 矢嶋直規 助教授「共同体と倫理」
- 7日 本丸中学校職場体験 (～8日)
聖籠町オーブン・カレッジ②
講師 北嶋藤郷 教授
「文学に見るアメリカン・ドリーム」
メルボルン大学附属ホーソン英語センター長期留学出発
(3名) (～04年2月15日)
- 8日 三条市オープン・カレッジ②
講師 前嶋和弘 専任講師
「第二次世界大戦後のアメリカと世界の関係を考える」
- 10日 教養リフレッシュ・リトリート (～11日)
講師 倉橋康夫 日本基督教団富士見町教会牧師
「宗教と人間」於: 黒川村・胎内パークホテル
植樹式 14:40～
- 14日 履修登録確認期間 (～20日)
- 15日 新潟市立南浜中学校学校見学
三条市オープン・カレッジ③
講師 松崎洋子 教授 「文化を考える」
- 17日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑯
説教 竹前篤 日本基督教団新発田教会牧師
「主人のいる生活」
- 18日 保護者との就職懇談会 (3年生保護者対象)
於: ホテルオーケラ新潟
- 21日 聖籠町オーブン・カレッジ③
講師 James B. Brown 教授「アメリカ:風土と人々」
- 22日 三条市オープン・カレッジ④
講師: 前嶋和弘 専任講師「メディアを考える」
- 24日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑯
説教 延原時行 宗教部長「あなたの宝のありか」
講演 金 承哲 金城学院大学教授
「生命科学の時代と
キリスト教」(写真)
- 28日 関根学園高校学校見学
聖籠町オーブン・カレッジ④
講師 松崎洋子 教授 「文化を考える」
- 29日 佐々木小学校学校見学
31日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑰
説教 後宮俊夫 学園理事長「生き方の大転回」

11月

- 1日 保護者との懇談会 (1・2年生保護者対象)
於: 大学
推薦入試出願 (～14日)
- 7日 ふれあいバラエティー
- 8日 第13回敬和祭 (～9日)
- 14日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑮
説教 延原時行 宗教部長
「マルティン・ルターの発見」
講演 伊藤國夫 塩津潟研究所長
「塩津潟は塩の道」
- 企業との就職懇談会 (57社) 於: ホテル新潟
教育実習反省会
新潟東高等学校学校見学
- 15日 新潟市オープン・カレッジ (～16日)
於: 代々木ゼミナール
講師: 児童文学家 松居直氏
「言葉の力と美しさにふれる」(写真)
- 19日 就職内定者の体験発表会
- 21日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑯
説教 宇田川潔 事務局長 「深い憐れみ」
講演 伊藤 豊 山形大学人文学部 講師
「エヌセントリズムと文化」
小千谷高等学校学校見学
- 22日 推薦入試
- 28日 推薦入試合格発表
チャペル・アッセンブリー・アワー⑰
説教 矢嶋直規 助教授「キリストの励まし」
講演 「阿賀に生きる」ファン俱楽部
旗野秀人さん、渡辺参治さん (写真)
「歌は百葉の長・渡辺参治さんの生き方に学ぶ」
- 29日 第3回英語科教員対象
リフレッシュ・セミナー

12月

- 1日 外国人留学生入試出願 (～26日)
- 5日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑯
説教 延原時行 宗教部長
「愛の讃歌—その“みなもと”」
講演 NPO法人アボラティアセンター代表 平田哲先生
「飢餓の世紀」が始まる」
- 10日 献血
- 12日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑰
説教 金山愛子 助教授「神の子イエス・キリスト」
講演 工藤薫子 地中海ソプラノ歌手
「独唱 讚美と証し」
- 19日 クリスマス燭火礼拝、キャロリング
- 20日 大学・高校合同クリスマス研修会
- 23日 冬期休暇 (～1月5日)



CAMPUS

KEIWA チャレンジ学生ファイル⑥



英語英米文学科 4年

ペルベルシ ジョバンニ

『故郷イタリアのこと』

自分がイタリア人であると人に言うと、「イタリアはいいところでしょう」と決まって言われます。もちろんイタリアは日本と全然違うところですから、文化や歴史、習慣、一日の過ごし方や仕事の仕方、食事のとり方まで日本とはまったく違います。でも、それだけでイタリアはいいところであって日本はそうではないとは言えません。

僕は、今年の夏休みに1ヶ月半帰国して、日本とはまったく違う生活をしてきました。確かにイタリアの若い人は、日本の若者よりも楽しみを見つけるますが、それと同じように、日本と比べものにならないくらい危険なことにあう場面が多いです。そういうことを考えるとやっぱり、「イタリアはいいところでしょう」と言う人に、僕は「日本と同じです、良いところもあれば、そうでないこともありますよ」と答えることになります。イタリアというだけで「いいところ」と決め付けることはできないのです。

僕は12年間日本に住んでいます。最近感じていることは、日本を「外国」とは言えないし、イタリアを「故郷」ときっぱり呼べないということです。僕はイタリアを12年前に出て全く環境の違う日本に住んでいます。日本とイタリアを比べれば比べるほど日本とイタリアの良い所が見えてきます。だから外国へ1回でも行くということは大きな経験になります。自分自身がよく見えてくるし、自分の国を見つめなおす一つのチャンスだと思います。